



YAMANASHI EIWA COLLEGE

# かけはし

KAKEHASHI 2022 vol.51



## Contents

学長・後援会名誉会長メッセージ	朴 憲 郁 ……01
後援会長あいさつ	飯 島 正 敏 ……02
本学におけるキリスト教教育について	洪 伊 杓 ……03
教務部	難 波 道 弘 ……04
学生部	山 本 明 歩 ……05
進路部	佐 柳 信 男 ……06
図書館	小 菅 健 一 ……07
チャペルセンター	大 久 保 絹 ……08
保健室	雨 宮 加 奈 ……08
学生相談室	設 楽 友 崇 ……09
新任教員紹介	長 谷 川 成 明 ……09
	新 居 み ち る ……09
	武 部 正 明 ……10
	渡 部 雪 子 ……10
	河 本 穂 馨 ……10
メイプルカレッジ広報 ……	
学生会	大 柴 彩 久 良 ……11
紅楓祭実行委員会	高 遠 千 尋 ……11
2021年度決算書／2022年度予算書 ……	



馬頭琴演奏会



地域連携：FUJIYAMA ツインテラス



朴 憲郁

学長  
後援会名誉会長

## 「開学20周年を迎えて」

猛暑の夏も峠を越して、今年も紅葉の楓の木々を見上げる秋の候を迎えようとしています。私たちはしばしば思いがけない天変地異と人間界の出来事に見舞われますが、自然法則によって春夏秋冬は確かに巡り、草木は萌え、小鳥はさえずります。その運行は、安定した持続可能な姿を映し出し、激しい社会変動の中で右往左往する私たちを静かに包み込んでくれます。

野に咲く一輪の花を見つめて、主イエスは山上で群衆にこう語りました。「統一イスラエル国の王であったダビデから継承したソロモン王の権力と栄華をもってしても、明日は炉に投げ込まれる野の花ほどには麗しくなかった」と(マタイ福音書6章29節)。動じることのないこの鋭い美的感覚と洞察力を、英和大学のキャンパスライフを送る私たちも分有したいものです。

私は昨年4月から山梨英和大学の学長を兼任してはや1年半が過ぎました。引き続きコロナ禍にあって後援会の理事会・総会の開催が中止となり、後援会会員の皆様に直接ご挨拶を述べる機会を逸して残念に思います。しかしコロナウィルス感染再拡大に細心の注意を払いつつ、今年9月にはどうか、後援会「保護者懇談会」が開催される見込みです。またこのたび発行の第51号「かけはし」の紙面を通して、大学の教学・運営と学生生活を支え見守ってくださる皆様にご挨拶とご報告をお伝えできますことは感謝です。

コロナ禍における大学の対応・対策としては、すでに前号でお知らせしましたように、山梨大学医学部の協力により、大学生および学院の生徒や全教職員とその家族から希望を募って、三回のワクチン接種を実施しました。感染対策としては全在生と教職員に随時websiteで、更新した「感染症対応マニュアル」を伝達し、本人や友人や同居家族に感染または濃厚接触が疑われる場合の対応、同居家族がPCR検査を受けた場合、医師の診察を受けた場合、感染対策報告書の作成、その他の対応策が詳細に示されています。マスク、消毒、三密回避なども徹底させています。しかしそれでも時々感染または濃厚接触が疑われるケースがあり、その場合は一定期間の自宅待機を求めますし、学生の感染状況はその都度学内メールで教員に報告されます。または授業・実習・演習などは受講者数も考慮して、対面型・ICT型・オンデマンド型・ハイフレックス型が行われますし、学生の課外活動については学生部の指示と許可を受けるようにしています。

大学のホームページに学長による「開学20周年記念事業の意義とヴィジョン」を掲載していますように、短大時代(1966年)から豊富な遺産を譲り受けて、その土台の上に4年制大学へと改組してから、今年度開学20周年を迎えています。後援会も同じく設立20年目を迎えました。記念行事は二年間、2023年度まで続きます。昨年の第50号「かけはし」で予告していました通り、記念行事としては、記念特別講演会(今年5月と11月)、記念論集(紀要特集号)、歴史編纂・資料収録、配布用パンフレット作成があり、教育施設面では築年25年を経た建物の大修繕工事、水道・照明・空調関係の取替や修理、キャンパスの整備を実施中であり、クラブハウスの建替と学生会館・チャペル・学生交流センターの新設、新時代に求められる情報技術機器を備えたAVシステム教室/集会室の新整備と障がい者を配慮したユニバーサルデザインなども、引き続き目下構想中です。

入学者につきましては、昨年度は大幅な増加であったのに比べ、今年度は定員より若干減少となっており、一喜一憂してはいますが、教職員一丸となってキリスト教高等教育のミッション(伝道、使命)に邁進しております。

学生を送り出してくださる後援会の皆様には、これらのことを祈りに覚えて、今後ともご記憶に留めてお支え下さいますようお願い申し上げます。



飯島 正敏

後援会長

## 読むことのすすめ

行動制限が緩和されてきたとはいえ、私たちは依然として新型コロナウイルスという目に見えない脅威にさらされています。コロナという禍(わざわい)から逃れることができずに不安な日々を過ごしていますが、そのようなコロナ禍の生活を通して改めて気付かされたことがあります。それは、読むことの大切さです。

緊急事態宣言中にステイホームが強いられていたある日、私は自室の整理をしていると、本棚の奥底から分厚い一冊の洋書を見つけました。大学の経済学の教科書です。とりわけ英語が苦手だった私は、友人と必死になって英文と格闘していました。英単語の意味を調べ、一字一句直訳して、テキストを読み解こうとしました。今はスマートフォンや電子辞書がありますが、当時は紙の辞書しかありませんでした。英語のテキストを読むだけでなく、辞書も読まなければならず、全て自力で読まなければならなかったのです。そのような懐かしい学生時代の逸話を思い起こしていると、近頃はほとんど読書をしていないことに気付きました。様々な媒体を通して読むことが可能になりましたが、パソコンやスマートフォンによって容易く情報を入手できる現代において、かつてのように落ち着いて読書に没頭し、書かれたテキストを自らで読み込もうとしなくなったと、身に染みて感じています。

山梨英和と所縁のある村岡花子さんは『ひまわり』という少女雑誌において、このように述べています。

女学生は良い本を読むことに対して、もっと熱心になり、自分たちに不適当なものを手当たり次第に読むことをしないという、しっかりとした批判の目を養わなければなりません。(…)私たちが今まで読んだものの中で、自分が引き上げてくれたと意識される書物はどんなものであったかを、静かに思い返してみましよう。そして、そういう書物を求めるようにしましょう。

(『村岡花子エッセイ—美しく生きるために』63頁)

これは1947年に発行された「女学生批評 読書について」の一部を抜粋したものです。村岡さんは「良い本」を読むことの重要性を説き、自分にとって有益な本は何かについて考えるべきだと学生たちに語っているのです。戦後間もない時代とは異なり、あらゆるモノや膨大な情報に溢れている現代において、本だけが教材ではないのは言うまでもありません。また、娯楽の多様化に伴い、読書を趣味とする人はかつてほど多くないかもしれません。しかし、「良い本」との出会いは、私たちの人生に大きな影響を与えるのだと私は考えています。

先程も述べた大学の教科書は非常に分厚く、難解のあまり私は読破できませんでしたが、経済学という学問に出会うきっかけを与えてくれた、私にとっては意味のある本です。私の人生にとって欠かせない本がもう一冊あります。それは聖書です。未だに通読できていませんが、忙しい日々の中でふと聖書を手に取って開くと、神様が自分に対して語りかけてくれているような感覚を覚えます。皆さんの人生にとって欠かせない本は何ですか。そのような本が何であれ、日々の生活において、本のテキストとの交わりを大切にしていきたいと思えます。

最後に、村岡花子さんが翻訳したとされている1954年版の讃美歌7番「主のみいつとみさかえとを」の2節において、「ゆだねまつるわが重荷を、主はかわりて負いたもう。悩みおおき世の旅路も、主のいませばやすけし。」とあります。今、私たちはコロナ禍にあって、常に不安と隣り合わせの生活を余儀なくされています。しかし、神様はいかなる時にも私たちと共にいて下さり、心の不安を取り除いてくださいます。聖書を読み、御言葉を心の拠り所とすること、それこそが不安な日々を生き抜く私たちにとって最も重要ではないでしょうか。

## 新たな20年につながるメイプルロード

宗教主任 洪 伊杓

1966年に創設された山梨英和短期大学が男女共学化と横根キャンパスへの移転を経て、2002年から4年制大学になりました。このような歩みを振り返り、新たな20年を展望する今年、「大学開学20周年」を記念する様々な事業が行われています。ハードウェア的な面では校舎全体の大修繕工事が実施され、学生会館やチャペル新築などについても議論されています。ソフトウェアの面では、記念講演会(2回)とアニバーサリーソング発表、メイプル・カレッジの記念講座、記念冊子や大学『紀要』の記念号編纂などが企画されています。

本学の創立記念日である5月27日(金)には「大学開学20周年記念祭」が行われました。記念礼拝において朴憲郁学長が「新しいぶどう酒は、新しい革袋に入れる」というメッセージを伝えた後、大学同窓会の牛山晶子会長による寄付目録贈呈も行われ、卒業生との絆と信頼を再確認しました。

引き続き、芦名定道先生(京都大学名誉教授)を招き、「キリスト教主義大学の未来を展望する一地方・地域からの発信」というテーマで記念講演会を開きました。大学の現状とキリスト教大学の意義を振り返った後、社会の『コモン』であり教育の中心になること、地域との連携の中で市民の「知的拠点」になること、ポスト・コロナ時代を準備することなどを提案されました。何よりも本学の構成員全体のキリスト教への理解を深めることも強調されました。先生の御祖父様は、日本基督教団山梨教会牧師、同教団山梨分区伝道委員長、山梨英和学院講師(漢文・文学)、山梨英和学院保護者会会長などを務めるなど、この地域・本学と密接な関係があった芦名武雄牧師(1890-1943)でした。御尊父である芦名直道牧師(1920-2000)は、春日小学校と甲府中学校で学んだ山梨出身者で、離郷後も日本基督教団甲府中央教会の創立に関わるほど山梨とはゆかりのあるご一家でした。御祖父様が残した「娘の教育」という文章がご講演で紹介されましたが、本学が目指すべき教育目標と意義をよく表現しています。

「私は三人の娘の教育のためにキリスト教主義の学校を選んだ。親として何人もの子弟の教育のために心労しない者はない。もちろん知識を十分に持ってほしい。身体も健康であってほしい、それと共に力強く美しい精神の持ち主になってほしいのであるが、できるなら知情意の円満なる発達をさせたいものだ」と望む。」

午後にはシンガーソングライターで、牧師としても活躍されている陣内大蔵先生による「開学20周年アニバーサリーソング発表会」がありました。大学のクワイアが1958年に作られた校歌をオープニングソングとして発表した後、陣内先生が創作した「メイプルロード」という曲が披露され、聴衆はみんな感動しました。本学の建学精神である「敬神・愛人・自修」と校庭から眺められる風景、学校生活の交わり、未来への望みを感じられる素晴らしい曲が誕生しました。



開学20周年記念講演会



開学20周年アニバーサリーソング

『Maple road』 作詞・作曲 陣内 大蔵

1. 山並みが映えるのは 空が青いからだと 仰ぎ見上げたその広さ  
やわらかい木漏れ日が 君の肩で揺れてる そっと背中を押すように  
祈る心 歌う声 風に吹かれ響けば  
Respect for God Love for Others Self Development  
ここから始まる 明日へと Our Maple Road
2. 優しさが染みるのは 君の温かさゆえ ゆっくりと心でわかる  
涙には涙あり 笑顔には笑顔へと 寄り添うぬくもりはここに  
ありのままの 素直さを 交わし合えるその時  
Respect for God Love for Others Self Development  
いつでも戻れる この場所へ Our Maple Road
3. 踏み出したその先は 君にしか行けぬ道 育まれた夢を抱き  
求めればいつの日か それは与えられると 信じる気持ちをその手に  
季節ごとに 彩は 深く君を包んで  
Respect for God Love for Others Self Development  
全てがつながる 未来へと Our Maple Road

これからの20年、正門から続くメイプルロードを歩く全ての学生、教職員、同窓の皆さんに愛唱される曲になってほしいと願っています。当日の発表会の動画は下記のアドレスでご覧いただけます。

<https://www.youtube.com/watch?v=Q89KffhMXhg&t=1825s>

## コロナ禍での授業とカリキュラム改善

副学長・教務部長 難波 道弘

2022年度、本学でも多人数の一部授業を除き原則対面授業に戻しました。学生食堂も再開し、キャンパス内でも学生の皆さんの声が多く聞こえるようになりました。緊急事態宣言が発令され、キャンパスが閉鎖されて授業が一切できなかった時と比べれば、平常時の風景に近づいているような気がします。しかしながら、学生からも教員からもコロナに関連した体調不良の報告を数多く受けました。コロナ禍も現時点で第7波が押し寄せ、感染報告が届く状況は夏休みに入っても続いています。大半を対面授業には戻しておりますが、大学ではそのような場合にオンライン授業に切り替える、代替課題を提示するなどの対応を取り、学生の皆さんが不利益を受けることがないように可能な限りの配慮をしております。後期に入ってもこの状況は続くと思われまますので、引き続き、ご理解・ご協力をよろしくお願い申し上げます。

少し話題を変えますが、山梨英和大学が持つ学部・学科は人間文化学部人間文化学科というただ一つです。この学科には大きく分けて3つの領域(サイコロジカル・サービス【心理】、グローバル・スタディーズ【言語・文化】、メディア・サイエンス【情報】)があり、学生は領域に設置された科目を自身の進路や興味に応じて選択することができます。入学以前から学びたいことが明確だった人、入学時点では学びたいものがぼんやりしていた人、入学してからの1年間の学びでやりたいことが変わった人、学生は様々です。人間文化学部人間文化学科ではいずれのタイプであっても学びを続けることができます。2002年に開学して以降、何度かカリキュラムを変えてきましたが、このしくみは変えておりません。それはこの点が本学人間文化学部人間文化学科の大きな強みであると考えているからです。

2022年度のカリキュラム(現1年生以降)も少しですが改正をいたしました。一つは全学年ゼミ制のあり方を見直し、2年次に領域別の導入ゼミナールを新規に設けたことです。3年次にゼミ配属になる前に専門領域に深く触れる機会を提供することができます。少人数ゼミを予定していますので、前述のパターンに当てはまる学生の皆さんのニーズに応えられると考えています。もう一つは専門プログラムの一つであるICTプログラムをデータサイエンスプログラムに改めたことです。これからの社会ではデータサイエンス(データ分析)やAI(人工知能)の活用がより加速化します。そこで専攻する学問領域に関係なくすべての学生がこれらについての基本的な知識を持つことが必要とされるようになりました。そこですでに卒業するための必修科目としているデータサイエンスとICTスキルに加え、一部の専門科目を履修することでプログラムを修了できるように改めました(2022年度以降の入学生が対象です。それ以前の学生は従来のICTプログラムを選択できます)。これにより、どの領域を学ぶ学生であっても大幅な負担となることなく修了をめざせる形となっております。データサイエンスプログラムは1年次の後期から募集を開始する予定です。

コロナ禍で中止しておりました保護者懇談会も今年度は再開させていただくこととなりました。今後も保護者の皆様と大学を繋ぐ機会を作っていきたいと考えておりますので、今後ともよろしくお願い申し上げます。

## コロナ禍に思う「一寸の光陰」

学生部長 山本 明歩

朱熹は12世紀に活躍した中国の儒学者ですが、「少年易老学難成 一寸光陰不可軽 未覚池塘春草夢 階前梧葉已秋声」という有名な詩を残したと言われています。時の流れは時に速く、そして時にゆっくりと、まるで川の流れるように変幻自在に流れていきます。そのような大きな流れの中で、目の前にある一つ一つの流れをどのように使うか、それはその人の人生を彩ると言っても良いのではないのでしょうか。

特に大学生活の4年間はその人の人生を方向付ける重要な時期です。誰もがほぼ同じ内容を学習していく小学校から高校までのカリキュラムと異なり、大学では、原則として自分で何を学ぶかを決め、そして卒業後には多くの学生が就職し、「社会人」として社会へと羽ばたいていきます。言わば学校教育と社会との中間に位置し、自分の将来について考え、そして未来を選び取っていく、そういう大事な時期であると言えるでしょう。大学はその大事な時期をより充実したものとすべく学生を支えていますし、その中であって学生部もまた、課外活動をはじめとして学生生活の様々な側面を支え、大学での学生生活をより実り豊かなものにするお手伝いをする部署であろうと努力しています。それだけに、この2年半の間、新型コロナウイルスの影響の大きさを常に痛感してきました。

クローズ宣言から始まった2020年度は、通常の大学生活がほぼ停止し、授業もオンラインでの実施となっただけでなく、食堂も閉鎖し、課外活動は個別に許可をしながらの実施となっていました。そうした制限は段階的に緩和されてゆき、2021年度には多くの大学が学園祭を中止したりオンラインで実施したりしている中、制限がかかる中であるにせよ、本学では学園祭を対面で実施しました。これは非常に勇気のいる決断ではありませんでしたが、幸いにも、感染状況は2021年の夏から秋にかけて収束に向かい、比較的安全であると考えられる状況の中で実施することができました。また、その過程で実行委員会が新型コロナウイルス感染症拡大に自ら向き合い、どのような形で「安全性」と「学生生活の充実」を両立させるのかという困難な課題に向き合う様子を間近で見守りつつ、共に考えることができたことは非常に大きな収穫だったと考えています。まさに、一寸の光陰が輝きを放つ、そういう機会に巡り合うことができたのです。

その後、残念ながら感染者数は2022年に入った頃から再び増加傾向へと転じ、ついには過去に例を見ないほどの感染拡大という状況に至りました。その一方でワクチンの接種も進み、重症化する感染者の数も減少しつつあるようです。コロナ禍がこれまでとは異なるフェーズへと移行しつつあるのかどうかはまだ予断を許しませんが、こうした状況の中で、学生部も新たな対応を模索し続けています。

これまで原則禁止していたサークル棟への立ち入りについても、もちろん感染拡大に十分注意した形ではありますが、より自由化していくべく準備を進めています。学内でも学生同士が談笑する日常の風景が戻ってきていますし、それがどれほど貴重なものであるかということを感じることができました。コロナ以前には決して気づけなかったことだっただろうと思いますが、一時的に失うことによって、そのありがたみを身にしみて感じるすることができました。しかし同時に、これまでの2



活気にあふれた課外活動の1シーン

年間ではあまり生じていなかった問題への対応も求められるようになってきました。例えば学生相談室が実施したアンケート調査では、人と接し、交友関係を再構築していく中での再適応が課題として指摘されてもいます。

感染拡大を防ぐため十分に注意を払いつつ、学生同士、そして学生と教職員との関係性を再構築していく中で、我々には何ができるのだろうか。学生部では今そのような問題意識を基盤として、今後の対応を模索していきたいと考えています。

# コロナ禍における山梨英和大学の進路支援

進路部長 佐柳 信男

私の専門の発達心理学では、青年期は人生の目的を決めるだけに模索する時期だとされています。大学生は、まさに自分の人生で「やりたいこと」が何か、また自分に「できること」と「できないこと」について考えて揺れ動きながら自分らしい生き方を見つけていくことが発達上の課題です。模索する中で壁に当たったり、自分の限界も見えたりすることもあります。大学の進路支援の役割は、本人が自分で考えることをサポートしながら、本人が納得できる進路選択ができるよう寄り添うことだと私は考えます。

進路部は、独立した部署として3年目を迎えました。より手厚く学生の進路を支援できる体制が整い、その成果も出始めています。一方で、コロナ禍によって就職活動は厳しい状況が続いています。本稿では、その現状を紹介します。

## 就職活動・進路支援の現状

2022年3月に卒業した学年の就職内定率は93.7%と前年度を上回りました。昨年度はほとんどの就職活動がオンラインで、変動的な状況の中で学生たちはよく頑張ったといえます。就職以外の進路としては、大学院進学者が9名いた他、科目履修生や研究生として学び続ける者が目立ちました。2021年度の卒業予定者数119名に対して実施された個別面談の回数は延べ500回以上で、学生1人あたり平均で約5回の個別面談を受けながら進路について検討を重ねたこととなります。

今年度の就職活動が始まるのに先立ち、2月9日に大学の大学大教室で就職活動に臨む3年生を集めて「就勝スタート応援会」を行いました。内定を得ている4年生の司会進行で、内定者や就職している先輩からのメッセージや、マイナビや進路部からの就職活動に当たっての心構えについての話で学生を就職活動に送り出しました(写真1)。今年度の就職活動は、従前の対面で面接する方式に戻りつつありますが、今後もオンラインを併用した採用活動が定着すると思われる。今年の企業の採用意欲は高いといわれており、現時点での本学学生の内定率は昨年度を上回っており、複数の内定を得ている学生も少なくありません。内定を早く得ている者の多くは、進路部が開催している3年生向けの進路ガイダンス(後述)に参加していた学生です。

一方で、就職活動が前倒しになっている分、出遅れていることが目立つ学生も散見されます。発達心理学の見地からは、大学生は立ち止まって悩むことも大切ではありますが、現実問題として就職活動の開始が遅れると、採用を終えた企業が増え、本人が就職できる選択肢が減ってしまいます。就職活動に臨む学生の保護者の皆さまにおかれましては、ぜひ背中を後押ししていただければと存じます。迷っていても「足を動かしながら考える」ことがとても大切です。

就職以外の進路、特に大学院進学につきましては、専門分野によって受験の事情が異なるため、アドバイザーの教員と連携しながら支援を行っています。進学についても早くからの準備が必要ですので、やはり迷っていても立ち止まらずに動き続けることが大切です。

## 下級生への進路支援の状況

進路部が独立したことで、昨年度から下級生への進路ガイダンスを拡充して、上にも述べましたように成果が出始めています。

2021年度は3年生を対象とした就職ガイダンスは24回行われ、個別面談も延べ255回行われました。今年度もほぼ同じペースで3年生向けのガイダンスが行われています。

1年生と2年生に対しては、必修科目である「基礎ゼミナール」と「展開ゼミナール」の中で進路について考える単元を設け、進路部の担当者などからの説明を受けてそれぞれのクラスでディスカッションが行われました。

さらに、進路部ではインターンシップにも力を入れています。様々な業種の職場に出向き、実際に働いている現場を経験しながら自分の適性や興味について考えるよい機会となるためです。企業の採用活動で今後はインターンシップが重要な役割を果たすようになるケースが増えるといわれています。本学では、授業の単位になる正課のインターンシップと、単位にはならないものの、より手軽に参加できる非正課のインターンシップを用意しています。正課のインターンシップは企業だけでなく、自治体の役場や子育て支援センターなども選べます。今年度の正課インターンシップでは38名の学生を、非正課インターンシップでは延べ100名以上の学生を派遣する予定です。

進路部では、今後とも学生に寄り添いながら、よりよい進路支援のあり方について検討し続ける所存です。助言や要望がありましたら忌憚なくぜひご意見をお寄せください。



2月に行われた「就勝スタート応援会」の様子

# 活気と賑わいを取り戻しつつある図書館—読書推進活動と学生の活躍—

附属図書館長 小菅 健一

COVID-19のパンデミックは、未だ終息の目処が立たず、本館では、開館時間の短縮などの制限を余儀なくされています。しかし、対面講義の再開と共に、館内は学生たちの姿で賑わいを取り戻し、図書館業務は、学生たちの興味関心に合わせた新刊の受入や資料提供はもちろんのこと、学習に役立つ展示の実施や、レファレンスサービスなど、学習支援業務を対面で、より本格的に行うことができるようになりました。

2020年度より本館の学生協働サークルLIKE (以下、LIKE) の学生と共に、力を入れている読書推進活動は、数々の実績を上げることができました。24年ぶりに山梨県で開催された「第107回全国図書館大会山梨大会」では、館長とLIKEが「場としての大学図書館の役割」をテーマに本館の活動報告をしました。また、2022年3月にはLIKEで活躍している学生が、県内大会や全国予選会を通過し奈良県生駒市で開催された「第7回ビブリオバトル全国大会inいこま」へ出場し、見事優勝しました。その時の様子は、山梨日日新聞他、各種メディアに掲載もされておりますので、ご覧いただけた方もいるのではないかと思います。

参考までに最近の活躍の一端を御紹介いたします。この勢いはまだまだ留まることなく、今年の後半も持続していきますので、後援会の皆様、ぜひ、今後とも本館とLIKEの学生たちの活動に御注目下さい。

昨年度からの本館の諸活動(抜粋)

2021年10月	図書館紹介動画の作成、公開	動画はこちらから▶
11月	「第107回全国図書館大会山梨大会」での活動報告	
12月	「ビブリオバトルやまなし2021」運営協力、出場・優勝	
2022年 1月	甲斐市立竜王北中学校にて、ゲーム型図書館利用オリエンテーションの実施	
2月	LIKEのFM Kofu「Rec☆yのみんみんゼミ」出演	
3月	「第7回ビブリオバトル全国大会inいこま」決勝戦出場・優勝	
4月	やまなし読書活動促進事業実行委員会 司書が実行委員、LIKEがサポーターに就任	
5月	山梨市立図書館連携展示「平和について考える」実施	
6月	大学コンソーシアムやまなし「学生イニシアティブ事業」申請、採択(LIKE)	
7月	高校生対象職場体験の実施	
8月	甲州市立勝沼図書館にて「夏休み 読書感想文講座」の実施	
9月	「本と出会うマルシェ@甲府銀座通り商店街」の開催予定	



第107回全国図書館大会山梨大会でのオンライン発表の様子



甲斐市立竜王北中学校で実施したイベントの様子



第6回全国学生協働サミットでの発表の様子



ラジオ出演の様子

## たしかな礎の上を歩む

2022年度、チャペルセンターでは、キリスト教諸活動をコロナ禍以前の形に戻そうと努めています。グリーンバンクホールでの週3回のチャペルアワーを再開し、キリスト教教育週間も従来の形で実施しました。前期で行われた36回のチャペルアワーは、出席者の平均が75名程で、多くの学生、教職員と共に礼拝を守れることの豊かさを再確認できました。

キリスト教教育週間は、大学開学20周年であることから、山梨英和の校訓と歴史をテーマに選びました。1日目は「敬神」、2日目は「愛人」、3日目は「歴史」、4日目は「自修」と、日ごとに校訓や歴史についての理解を深められるよう、地域の牧師や開学時在学していた卒業生、教員からのメッセージを聞きました。山梨県唯一のキリスト教大学として、どのような使命をもって歩んできたか、また校訓を活かしどう歩んでいくべきか、共に考え、学ぶときとなりました。

学生活動も通常に戻りつつあります。ボランティアサークルThe Peace Fellowsは、校訓を体現するために、フードバンク山梨や山梨ダルクへの支援の他に、ウクライナの平和を求めた募金活動、甲府YWCA主催の「ピースフェスタ」などにも関わりました。聖歌隊グリーンチャペルクワイアは、チャペルアワーや記念行事の中で奉唱しました。それぞれの賜物

宗教主事 大久保 絹

を活かし奉仕し、コロナという危機の中にあっても、学生の時代だからこそ取り組める活動を通して、いろいろな人と出会い、経験を積むことができているように感じます。

「危機crisis」とは、ギリシア語krineinに由来します。この動詞は「分ける・判断する・決定する」を意味し、そこからcrisisに「これから取るべき道を判断・決定すべき別れ目、決定的な転機」という含意が生じました。コロナ禍という危機を経ることで学んだことを、単に危機以前へ戻るのではなく、危機以後の日常が新たな世界での新たな学びの日々となるよう模索を続けています。

「主は人の一步一步を定め、御旨にかなう道を備えてくださる。」(詩編37編23節)この年間聖句の通り、それぞれに示されている道はどのようなものなのか問いながら、その歩みが守られるよう祈りたいと思います。



5月24日(火)キリスト教教育週間2日目の様子

## 感染対策と教育活動の両立について

保健師 雨宮 加奈

今年の4月に対面授業が本格化しました。静かだった校内が一転し、活気に満ちています。以前は、感染予防のため利用できるスペースに制限を設けていましたが、対面授業再開に伴い、以前とほぼ同じ状態に戻っています。さらに学食も再開し、昼食時には多くの学生で賑わっています。ゼミカフェは、講義棟入口近くにある学生憩いのフリースペースです。大きな机とファミレスのような2人掛けのソファが対面に置かれている場所で、やはり2年ぶりに全面開放しました。



サーモカメラと消毒液を利用する学生

授業の合間の待ち時間やレポート作成、友人たちとのお喋りにと様々な目的で多くの学生が利用をしています。サークル等課外活動も本格的に活動を再開しています。前期には1,2年生を先輩が勧誘している姿が印象的でした。多くの学生が課外活動に参加したり、興味を持っている様子が伺え、感染対策と大学生活を上手く両立させ、楽しんでいるように見えます。

学内が賑やかなことは嬉しい反面、学生同士や教職員と接する機会も増え、感染するのではないかとという“不安”も高まります。本学においては、「新型コロナウイルス感染症に関する山梨英和大学の対応について【特設ページ】」に掲載されているとおり、本学の行動指針やガイドラインに従い行動しています。また、「3つの密」を避ける、「人との間隔が十分とれない場合のマスクの着用」及び「手洗いなどの手指衛生」など基本的な感染対策を各授業、学校行事などすべてに導入し徹底に努めています。過去に授業や課外活動でのクラスターが発生していないのも、学生の理解と協力があってこそだと感謝しています。「体調不良の際は登校しない」「基本的な感染対策を一人一人が高い意識を持ち実践する」ことの重要性を実感しています。

感染対策と本学の教育活動をはじめとする諸活動との両立をさらに進展させ、新しい日常のもとにそれぞれの活動を更に充実発展していけるよう、努めてまいります。

今後とも保護者の皆様のご理解とご協力をよろしくお願いいたします。



新型コロナウイルス感染症に関する山梨英和大学の対応について【特設ページ】

## 七夕の願い

主任カウンセラー 設楽 友崇

今年度から本格的に対面授業に移行し、学食も再開しました。学生たちは徐々にキャンパス内で談笑したり授業課題に取り組んだりするようにもなりました。学生相談室の利用件数もコロナ禍前の水準に戻り、再び気軽に相談できる場所となりました。

その中で、相談室では七夕の前後に、部屋の前の廊下に笹を立てました。季節感のある学内グループイベントとして例年行っていたものですが、コロナ禍での中断があり、2年ぶりの笹飾りでした。ちょうど学生会主催の「縁日」が七夕の翌週に開催されると聞いて、それに向けた賑やかしにもなればと例年より長い期間飾っていました。毎日の授業で廊下を歩き交う学生や教職員が足を止め、思い思いの願い事を短冊に書き、笹に結びつけてくれました。日本語だけでなく、中国語や、ベトナム語の短冊もありました。

飾り始めた当初は鮮やかな緑色がまぶしかった笹は、日に日に増える短冊の重さで枝がしなっていきました。素朴なイベントでも楽しんでもらえて嬉しいねと、当初はカウンセラー内で話していました。しかし、日が経っても勢いが止まらない様子に驚き、そんなに我慢して生活しているのかなあと心配したりもしていました。結局、笹の色がすっかり抜けた頃

には146枚になりました。

片付けながら目についたのは、「会う」や「会える」という言葉が一昨年よりもぐんと増えたことでした。もちろん、幸せとかお金とか健康とか単位など、毎年見る言葉は今回もありました。しかし、常に一定以上の途切れることのない緊張の下にあって、自由に出かけて大切な人と気兼ねなく「会う」ことはまだまだ難しい、そういう生活を私たちは今も送っています。短冊の願いは、その状況を生き延びてきた学生たちの切なる願いであるのかなと感じました。

保護者のみなさまも、学生に関してお気づきのこと、気がかりなこと、何かありましたらぜひ相談室へご連絡ください。ご一緒に考えましょう。

学生相談室連絡先  
[直通]055-222-5640



## 新任教員紹介

准教授 長谷川 成明

この4月に着任しました長谷川です。京都で生まれ育ち、これまで北海道や東京などで暮らしてきました。山梨に住むことは今回が初めてで、こちらの気候風土に触れて日々新しい発見を楽しみながら毎日を過ごさせて頂いています。



専門は植物生態学、数理生態学で、主に樹木を対象として数理的な解析やコンピュータシミュレーションなどの手法を用いて生きざまを解き明かす研究を行ってきました。樹木はなぜそのような形態をしているのか、なぜそのような振る舞いをするのか、そういった疑問に答えられるところが研究の興味深いところです。

こちら山梨は富士山、南アルプス、八ヶ岳といった山々に囲まれて自然豊かなところです。これらを生かした研究ももちろんですが、プライベートでの登山も楽しみたいと思っています。

新型コロナウイルス感染者数がなかなか減少せず、以前と全く同じ活動は未だ難しい状況にはあります。しかしながら新しい科学技術の力を活用しながら、大学が学生の皆さんにとって豊かな学びの場となるよう努めていきたいと思っています。

准教授 新居 みちる

4月に着任致しました。山梨英和大学では「臨床心理学概論」や「社会・集団・家族心理学Ⅱ」、大学院では「臨床心理学特論Ⅰ・Ⅱ」などの講義を担当しています。授業内で頂くコメントなどから、本学の学生さんの豊かな感性や発想の面白さ、努力を惜しまない姿勢など、良質な素養



に触れ、教員としてやりがいを感じています。また、本学の教職員が一丸となり、朝早くから夜遅くまで熱心に一人ひとりの教育指導について論議を重ねている様子から、「人間教育の根幹」や「学びの場を創ることの意味」について考えさせられ、このような教育の場に身を置ける喜びを実感しています。

私の専門は臨床心理学で、これまで医療・教育・福祉・産業・私設心理相談などの領域で心理臨床経験を積み、後進育成や芸術療法を基盤とした研究を行って参りました。具体的には「うつ病者の回復過程」、表現・イメージを用いたスーパーヴィジョンならびに教育分析などの「心理臨床スーパーヴィジョン学」、人はなぜ表現をするのか、表現をサポートすることの意義、心理臨床における表現や創造性について研究をしています。

新任教員紹介

准教授 武部 正明

助教 渡部 雪子

この4月に山梨英和大学に着任いたしました。

着任前に多くの方に「甲府は暑いよ」と言われましたが、「暑い中、汗をかくのが夏の良さ」と思う自分にはむしろ各所の冷房の冷えが天敵でした。



私の専門は、自閉スペクトラム症等の発達障害者の心理臨床です。これまで医療機関（発達精神科）や療育センター、行政で発達障害者の支援、高齢福祉等に心理職として従事してきました。一方、複数の大学や臨床機関、当事者の方々と臨床研究にも取り組んでいます。少数派の方々が少しでも生活しやすくするための支援のあり方、インクルーシブな社会をつくるためにはどうしたらよいかを常に考え、意見交換することがライフワークです。

山梨英和大学は、山梨県という土地に根をおろした伝統のある教育機関です。一方で、留学生の積極的な受け入れ、国際研究や学際的な研究の展開、図書館を中心とした優れた情報システムを有するなどグローバルな大学教育としての多様なコンピテンシーの育成が特徴でもあります。こうした環境で働くことができることに感謝しつつ、学生の皆さんと議論や意見交換できるような授業ができるよう精進していきたいと思っています。

4月に着任してからあっという間に半年近くの月日が流れています。昨年より、非常勤講師としてオンラインで学生のみなさんと交流をしていたものの、実際に会うことはできずとても残念に思っていました。今年は目の前にいる学生さんたちと授業を行えることにひしひしと喜びを感じる日々です。



私は学生の頃から子どもの心理臨床に携わってきました。今でも学校でスクールカウンセラーとして働いているのですが、子どもたちとかわる中で、心に悩みを抱えていても自分でも気づくことができずに腹痛といった身体的な痛みを訴える子どもたちに多く出会いました。こうした子どもたちの心身のケアを行うため、これまでに家族関係についての研究や攻撃性についての研究を行ってきました。現在は、子どもから大人まで心身の不調や抑うつ反芻の強い方を支援するために、心療内科医と共同でイメージを活用した研究を進めています。

山梨英和大学での出会いを大切に、学生さんに寄り添いながら共に心理臨床の道を歩んでいきたいと思っておりますのでどうぞよろしくお願いいたします。

新任教員紹介

助教 河本 毬馨

今年度より司書課程プログラムの教員として着任いたしました。山梨での生活は初めてですが、周囲が山に囲まれ、水が綺麗で（人生で初めて浄水器を使わずに生活しています）、多くの果物が実る豊かな土地に来ることができたことを大変嬉しく思っています。



私の専門は図書館情報学で、特に公共図書館を対象としています。利用者あるいは社会にとって図書館という「場」はどのような役割を果たしているのか、果たすべきなのかを概念的に検討しながら、今後はどのように発展していけばよいかを考えるための研究を行っています。

司書資格が取得できる大学は県内でも珍しいからか、まだ着任して数ヶ月程しか経っていないにも関わらず、卒業後は図書館で働きたいという強い意志を持った多くの学生との出会いを経験しています。彼らに必要な知識や技術を教えられることに非常にやりがいを感じます。また、未来の図書館を考える対話を通してお互いに学び合えることはこの上ない喜びです。山梨英和大学から優秀な司書を県内・県外に輩出できるよう努めてまいります。

2022山梨英和大学メイプルカレッジ

<p>講座番号10 申込締切 11/25 (金)</p> <p><b>【オンライン】世界文学紀行</b> 恋愛と風刺の間で『春香伝』(18世紀頃) -</p> <p>講師 丁 貴連 宇都宮大学国際学部、 地域創造科学研究科教授</p> <p>※本講座はオンライン講座です</p> <p>日時 2022年 12月10日 (土) 11:00~12:30</p> <p>受講料 1,000円</p>	<p>講座番号12 申込締切 当日受講可</p> <p><b>“クラシック音楽”って、何?</b> 第9期 演奏家篇V イゴール・レヴィット -ロシアン・ピアノの深淵から現代を射抜く-</p> <p>講師 矢澤孝樹 ニコロン製菓 (株) 代表取締役社長 広瀬大介 青山学院大学教授</p> <p>日時 2022年 12月10日 (土) 13:30~15:30</p> <p>受講料 1,000円</p>
<p>今から受講できる おすすめ講座</p> <p>受講料は、本学学生無料、保護者2割引です。</p>	
<p>講座番号13 申込締切 11/10 (木)</p> <p><b>キリスト教と人間文化学</b> お上品な伝統と暗黒の力 -アメリカ文学とキリスト教-</p> <p>講師 杉村篤志 山梨英和大学専任講師</p> <p>日時 2022年 11月16日 (水) 13:00~14:30</p> <p>受講料 1,000円</p>	<p>講座番号31 申込締切 11/17 (木)</p> <p><b>自然素材でつくる クリスマスリース</b></p> <p>受講料 1,000円 花代 2,750円 (税込)</p> <p>※1回講座です。ご都合の良い日をお選びください。 (2クラス開講)</p> <p>講師 鶴田 悠 フルール夢工房経営</p> <p>日時 2022年 12月2日 (金) 10:00~12:00 2022年 12月3日 (土) 13:30~15:30</p>
<p>お問い合わせ・お申込み 山梨英和大学 メイプルカレッジ 甲府市横根町888 TEL : 055-223-6034 MAIL : extension@yamanashi-eiwa.ac.jp</p>	

## 豊かな学生生活へ

学生会 会長 大柴 彩久良 (2年)

学生会についてご紹介します。学生会は、企画・書記・広報・会計の4つの部署からなり、学生の皆様から頂いた学生会費を使用して、各サークルの予算管理、イベントの企画・運営を行なっています。私が目指している学生会は、学生を学業のみならず、学生生活をより楽しめるようなイベントを開催し、また、サークル活動などを問題なく活動できるように支援し、学生の皆さんの日常を豊かにし、思い出に残せるような日々を支える、そんな団体です。今年度は学生生活を楽しむということをモットーに、学生会メンバーを含めた学生全員が楽しく過ごすことができるよう日々活動をしています。

昨年度までは新型コロナウイルス感染拡大の影響を受け、多くの授業がオンラインとなり、サークル活動も自粛になったことで、学生同士の交流がほぼない状況でした。その中でも制限はあったものの工夫を凝らし、イベントを行ってきました。今年度は原則対面授業が再開となり、昨年度開催できなかったイベントや新しいイベントなどをより多く行い、学生同士の交流を深め、学校生活を体感できるイベント開催を考えています。すでに行ったイベントは、新入部員勧誘のためのサークルブースの設置や縁日があり、今後計画しているイベントとして、メイプルビート、焼き芋・花火大会、

クリスマス祝会、文化交流イベント、フェアウェルパーティー、ポッチャ大会などを予定しております。この他にも新規団体の設立、代表者会議や学生総会、サークル面談を行い、これらを通じて学生会の必要性や重要性を感じ、新たな課題や可能性を発見することも出来ました。

コロナ前の生活を取り戻しつつある今、新たなスタイルを取り入れつつ、学生生活が豊かになったと感じていただけるように学生会メンバー全員で尽力したいと思っています。終わりに、私たち学生会がこのように活動できているのは多くの方々のお力添えのおかげです。今後とも学生会をよろしく願いいたします。



## 新しい普通

紅楓祭実行委員会 委員長 高遠 千尋 (3年)

コロナ禍での普通とは何でしょうか。私たちは新型コロナウイルスという見えない恐怖と約3年間共に過ごしてきました。コロナにより、思い描いていた学生生活とは異なると感じている人はいるのではないのでしょうか。私もその中の一人です。コロナの影響により、オンラインで授業を受けることが当たり前となり、学校へ登校する日の方が少ないという時期もありました。昔では考えられなかった学校へ行かないということが普通となりました。現在でこそ学校に登校することが増えてきましたが、制限された学生生活ということが私たちの、コロナ禍の普通であると感じています。しかし、この普通の生活が送れていることに奇跡を感じます。この普通が続いてほしいと願っています。また、さまざまな方の努力によりこの生活が送れていることに感謝しかありません。

紅楓祭実行委員会は皆様に安心して、そして楽しんでいただける紅楓祭を作れるよう模索しています。今までの普通と現在の普通を共に感じていただけるような、そのような紅楓祭を目指しております。多くの学生が思い描いていた大学生生活の1日をこの紅楓祭で味わっていただきたいです。少しでも皆様が笑顔になれるように、そしてコロナ禍で何もでき

なかった悔しさが晴らせるよう精一杯努力します。

紅楓祭実行委員会はあくまで企画をすることが主です。紅楓祭は皆様が主役です。皆様が楽しいと感じ、前向きになり、そして幸せになれる紅楓祭を目指していきます。

最後になりますが、この場をお借りして、学生、先生方、地域の方々、企業の皆様、多くの方々にご支援いただいていることに、心より感謝申し上げます。



## 2021年度山梨英和大学後援会決算書

### 収入の部 (単位: 円)

科目	予算	決算	差異	摘要
前年度繰越金	2,163,537	2,163,537	0	
前期末未収入金額	20,000	20,000	0	2021年5月18日付入金の2020年度後援会費2名、20,000円(後援金山梨英和学院)については2021年度寄付2名(増額調整)
前期会費	5,780,000	5,850,000	△ 70,000	@10,000×585名
後期会費	5,690,000	5,760,000	△ 70,000	@10,000×576名
雑収入	17	21	△ 4	
合計	13,653,554	13,793,558	△ 140,004	

### 支出の部 (単位: 円)

科目	予算	決算	差異	摘要
会議費	10,000	0	10,000	
消耗品費	30,000	10,846	19,154	角2封筒、洋封筒
用品費	100,000	0	100,000	
通信費	200,000	81,172	118,828	会報かけはし郵送代他
印刷費	300,000	210,154	89,846	会報印刷代(209,440円)他
奨学費	0	0	0	山梨英和大学奨学資金(貸与奨学金)については、原資が充足されているため当面支援を中断
設備補助積立金(定額繰入)	1,156,000	1,170,000	△ 14,000	設備補助積立金会計へ繰入(前期会費納付者数@2,000×585名)
補助活動補給費	1,270,000	664,000	606,000	紅楓祭補助(@1,000×664名)
厚生就職費	1,400,000	1,400,000	0	就職活動諸費協力金
広報補助費	1,400,000	1,400,000	0	大学広報活動補助
福利費	70,000	10,000	60,000	弔慰金(学生保護者1名)
卒業記念品費	357,000	290,235	66,765	卒業記念品(115個)
寄付金	4,568,000	4,624,000	△ 56,000	山梨英和学院へ寄付(後期会費納付者数@8,000×578名)
雑費	10,000	6,000	4,000	かけはし学生イラスト謝礼(3名)
予備費	300,000	0	300,000	
次年度繰越金	2,482,554	3,927,151	△ 1,444,597	
合計	13,653,554	13,793,558	△ 140,004	

### 2021年度 山梨英和大学設備補助積立金会計決算書

#### (1) 普通預金の部 収入の部 (単位: 円)

科目	予算	決算	差異	摘要
前年度繰越金	13,751,501	13,751,501	0	
設備補助積立金(定額繰入)	1,156,000	1,170,000	△ 14,000	本会計から繰入(前期会費納付者数@2,000×585名)
設備補助積立金(特別繰入)	0	0	0	
預金等利息	109	117	△ 8	
合計	14,907,610	14,921,618	△ 14,008	

#### 支出の部 (単位: 円)

科目	予算	決算	差異	摘要
設備補助支出	0	0	0	
設備補助積立金	0	0	0	学生会館(クラブハウス)内設置商品購入のための定期積立金(各普通預金口座から振替)定期積立金(定期積立金)2009年5月21日定期積立金額:8,000,000円期間等:1年、満期自動継続
次年度繰越金	14,907,610	14,921,618	△ 14,008	
合計	14,907,610	14,921,618	△ 14,008	

#### (2) 定期預金の部 (単位: 円)

預入日	満期日	金額	自動継続金額	利息	利息合計	摘要
2009年5月21日	2010年5月21日	8,000,000	8,012,800	12,800	12,800	(預金期間年利率0.2%)
2010年5月21日	2011年5月21日	8,012,800	8,016,646	3,846	16,646	(預金期間年利率0.06%)
2011年5月21日	2012年5月21日	8,016,646	8,018,576	1,930	18,576	(預金期間年利率0.025%)
2012年5月21日	2013年5月21日	8,018,576	8,020,174	1,598	20,174	(預金期間年利率0.025%)
2013年5月21日	2014年5月21日	8,020,174	8,021,772	1,598	21,772	(預金期間年利率0.025%)
2014年5月21日	2015年5月21日	8,021,772	8,023,370	1,598	23,370	(預金期間年利率0.025%)
2015年5月21日	2016年5月21日	8,023,370	8,025,074	1,704	25,074	(預金期間年利率0.025%)
2016年5月21日	2017年5月21日	8,025,074	8,026,773	1,699	26,773	(預金期間年利率0.01%)
2017年5月21日	2018年5月21日	8,026,773	8,027,453	680	27,453	(預金期間年利率0.01%)
2018年5月21日	2019年5月21日	8,027,453	8,028,133	680	28,133	(預金期間年利率0.01%)
2019年5月21日	2020年5月21日	8,028,133	8,028,815	682	28,815	(預金期間年利率0.002%)
2020年5月21日	2021年5月21日	8,028,815	8,028,951	136	28,951	(預金期間年利率0.002%)
2021年5月21日	2022年5月21日	8,028,951	8,029,087	136	29,087	2022年5月21日(満期日)(※)

※ 預金期間年利率0.002%

#### (3) 設備補助積立金合計(満期日解約の場合) (単位: 円)

区分	予算	決算	差異	摘要
普通預金	14,907,610	14,921,618	△ 14,008	
定期預金	8,029,078	8,029,087	△ 9	2022年5月21日(満期日)(※)
合計	22,936,688	22,950,705	△ 14,017	

※ 預金期間年利率0.002%

## 2022年度山梨英和大学後援会会計予算書

### 収入の部 (単位: 円)

科目	本年度予算額	前年度予算額	差異	摘要
前年度繰越金	3,927,151	2,163,537	1,763,614	
前期末未収入金額	0	20,000	△ 20,000	前年度2021年5月18日付入金の2020年度後援会費2名、20,000円(後援金山梨英和学院)については2021年度寄付2名(増額調整)
前期会費	5,970,000	5,780,000	190,000	@10,000×597名
後期会費	5,820,000	5,690,000	130,000	@10,000×582名
雑収入	23	17	6	(2022年5月1日現在普通預金金利0.001%)
合計	15,717,174	13,653,554	2,063,620	

### 支出の部 (単位: 円)

科目	本年度予算額	前年度予算額	差異	摘要
会議費	10,000	10,000	0	
消耗品費	30,000	30,000	0	ハガキ用紙、角2封筒代(2,000枚)他
用品費	100,000	100,000	0	
通信費	200,000	200,000	0	通知郵送代@84×597名/返信@64×597名)後援会報郵送代@140×597名)他
印刷費	300,000	300,000	0	後援会会報印刷代(25万)、資料印刷代他
奨学費	0	0	0	山梨英和大学奨学資金(貸与奨学金)については、原資が充足されているため当面支援を中断
設備補助積立金(定額繰入)	1,194,000	1,156,000	38,000	設備補助積立金会計へ繰入(前期会費納付者数@2,000×597名)
補助活動補給費	1,582,000	1,270,000	312,000	紅楓祭(58.2万@1,000×582名)、学食運営費補助(50万)売店(コンビニ)運営費補助(50万)、他
厚生就職費	1,400,000	1,400,000	0	就職活動諸費協力金(就職指導・企業訪問・就職強化費)
広報補助費	1,400,000	1,400,000	0	大学広報活動補助
福利費	70,000	70,000	0	会員・学生慶弔費
卒業記念品費	484,000	357,000	127,000	卒業記念品@2,300(税別)×191個(見込191名前期卒業含む)
寄付金	4,656,000	4,568,000	88,000	山梨英和学院へ寄付(後期会費納付者数@8,000×582名)
雑費	10,000	10,000	0	かけはし学生執筆謝礼他
予備費	300,000	300,000	0	
次年度繰越金	3,981,174	2,482,554	1,498,620	
合計	15,717,174	13,653,554	2,063,620	

### 2022年度 山梨英和大学設備補助積立金会計予算書

#### (1) 普通預金の部 収入の部 (単位: 円)

科目	本年度予算額	前年度予算額	差異	摘要
前年度繰越金	14,921,618	13,751,501	1,170,117	
設備補助積立金(定額繰入)	1,194,000	1,156,000	38,000	本会計から繰入(前期会費納付者数@2,000×578名)
設備補助積立金(特別繰入)	0	0	0	
預金等利息	125	109	16	(2022年5月1日現在普通預金金利0.001%)
合計	16,115,743	14,907,610	1,208,133	

#### 支出の部 (単位: 円)

科目	本年度予算額	前年度予算額	差異	摘要
設備補助支出	0	0	0	
設備補助積立金	0	0	0	学生会館(クラブハウス)内設置商品購入のための定期積立金(各普通預金口座から振替)定期積立金(定期積立金)2009年5月21日定期積立金額:8,000,000円期間等:1年、満期自動継続
次年度繰越金	16,115,743	14,907,610	1,208,133	
合計	16,115,743	14,907,610	1,208,133	

#### (2) 定期預金の部 (単位: 円)

預入日	満期日	金額	自動継続金額	利息	利息合計	摘要
2009年5月21日	2010年5月21日	8,000,000	8,012,800	12,800	12,800	
2010年5月21日	2011年5月21日	8,012,800	8,016,646	3,846	16,646	
2011年5月21日	2012年5月21日	8,016,646	8,018,576	1,930	18,576	
2012年5月21日	2013年5月21日	8,018,576	8,020,174	1,598	20,174	
2013年5月21日	2014年5月21日	8,020,174	8,021,772	1,598	21,772	
2014年5月21日	2015年5月21日	8,021,772	8,023,370	1,598	23,370	
2015年5月21日	2016年5月21日	8,023,370	8,025,074	1,704	25,074	
2016年5月21日	2017年5月21日	8,025,074	8,026,773	1,699	26,773	
2017年5月21日	2018年5月21日	8,026,773	8,027,453	680	27,453	
2018年5月21日	2019年5月21日	8,027,453	8,028,133	680	28,133	
2019年5月21日	2020年5月21日	8,028,133	8,028,815	682	28,815	
2020年5月21日	2021年5月21日	8,028,815	8,028,951	136	28,951	
2021年5月21日	2022年5月21日	8,028,951	8,029,087	136	29,087	2022年5月21日(満期日)見込(※)

※ 預金期間年利率0.002%

#### (3) 設備補助積立金合計(満期日解約の場合) (単位: 円)

区分	本年度予算額	前年度予算額	差異	摘要
普通預金	16,115,743	14,907,610	1,208,133	
定期預金	8,029,087	8,029,078	9	2022年5月21日(満期日)見込(※)
合計	24,144,830	22,936,688	1,208,142	

※ 預金期間年利率0.002%



画：萩原 みのりさん(2年)

